

子供たちの「生きる力」を育む学校を

平成15年度改築予定の飯樋小学校校舎のプロポーザル競技（※1）の審査結果が出されました。今回の審査では、飯樋小学校校舎改築基本構想のテーマである「学社融合」と「生きる力」の2つを柱にして審査が行わ

れ、その結果、地域社会・文化・産業との連携や人間教育の場としての学校のあり方、さらに実施設計につなげていくためのワークショップ等のプロセスが明確に提起されていた（清水公夫研究所が最優秀者選ばれました）。

今後村では、今回の結果をふまえ、地域や学校、検討委員会と一緒に、子ども達が喜んで通える学校をめざし検討していくことにしています。審査の経過と、各者の講評については次のとおりです。

※今回の報告では、各者からの提案書については、著作権の問題等があり公表できませんので、講評のみお伝えします。

審査経過（原文）

飯館村立飯樋小学校校舎改築工事プロポーザル競技審査委員会は、平成14年3月27日（水）、公開のもとに第1次審査を行い、提出された26社の「技術提案書」を厳正に審査し、ヒアリング要請者として5社を選定した。

ここでは、プロポーザル競技に付す前に設置された飯樋小学校に関わる住民、教師、専門家などで構成される検討委員会での協議を踏まえて整理された「飯館村立飯樋小学校改築事業基本構想」を前提にして審査が行わ

※1 プロポーザル

設計案を求めずに、与えられた設計対象に対する思想、解決方法等の考え方を文章を主体にプロポーズさせ、それを審査し設計者を求める方法



（改築が予定されている飯樋小学校南校舎）

れた。すなわち子供たちの「生きる力」を重視する教育のあり方、地域社会との連携・融合のあり方、自然や環境・資源などを重視する施設のあり方、既存施設の利活用との関連などが明確に示されていること、それらを実施設計につなげていくプロセスが重視されていることが審査基準として考慮された。

4月15日（月）、この5社についての公開ヒアリングが行われ、これに基づいて第2次審査を行った。5社の提案をそれぞれ慎重かつ厳正に審査した結果、審査委員全員一致で、プロポーザルの趣旨を的

いると評価されたが、地域社会との連携や全体的なイメージのあいまいさなどの点でやや不安が残り、次点となった。

今回のプロポーザル競技にあたっては、飯樋小学校が取り組んできた「学社融合」の理念や、子供たちの「生きる力」を育む教育の場のあり方として提示された「飯館村立飯樋小学校改築事業基本構想」や既存校舎の利活用や複雑な地形などの制約条件のもとで、各提案者はそれぞれ真摯な取り組みと提案をいただいたことに審査委員一同、敬意と謝意を表すものである。

最優秀者への講評

株式会社
清水公夫研究所

提案は、地域社会・地域文化・地域産業との連携、人間教育の場として

の学校のあり方、クラスルームの考え方、環境共生や維持管理への配慮など、本プロポーザルの趣旨を総合的かつ適切に受けとめていることがよく伝わってくるものになっている。そして「学校づ

くり応援団」や「学校づくり新聞」などユニークなアイデアのもとにワークショップなど設計プロセスの新たなあり方を提起していることも評価できる。またブロックごとに分棟された屋根など、

地域環境や集落のイメージに調和させた空間的な魅力を引き出している。ただし、既存校舎の利活用についてのイメージがやや具体性を欠いていること、建替えられる校舎に小学校機能のほとんど

が委ねられており建替え規模と建設費の関係での検討を要することなどが指摘され、実施設計に向けて事務局との調整や当案が提案している「施設整備検討委員会」などでの検討が必要とされる。



◀各者から説明を受ける委員たち

**株式会社
都市環境計画**

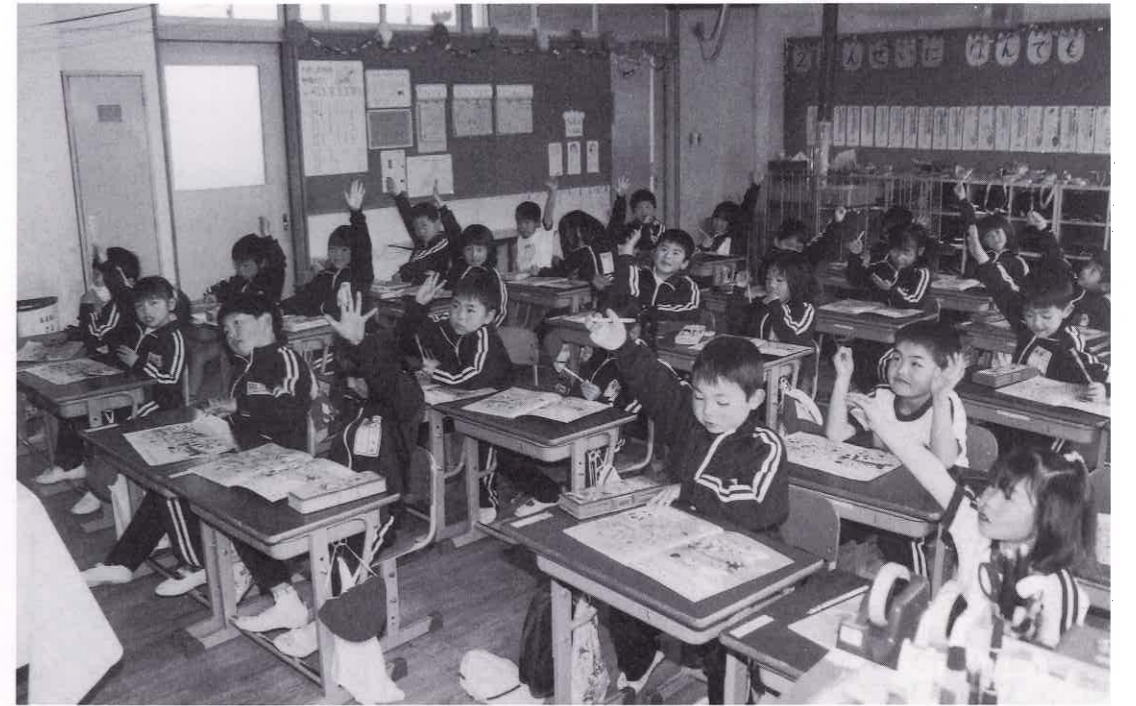
既存の校舎を積極的に活用し、新たに建てられる校舎と一つの軸線上に配置してしまうというユニークな案で、全体の中でクラスルーム棟の新しい雰囲気を作り出そうというアイデアが各所に挿入され、既存棟のリニューアルの考え方とともに好

**株式会社
白井設計**

この提案は、敷地の西側に位置する幼稚園との境界が6mほどの法面になっており、そこに高学年エリアと特別教室群を配置し、既存の西校舎と北校舎には中高学年エリアと管理エリアを配し、既存校舎の南側に低学年エリア、総合メディアセンター、多目的ホール、芸術エリアが配置されている。さらに地域との連

■次点
**株式会社
テイ・アール建築
アトリエ**

本提案は「変化のある学びの場・快適な居心地があちこちに散りばめられた学校づくり」というコンセプトのもとに、明快な考え方を示している。それは2学年を1単位としたブロックを子供たちと教員の活動の拠点である教室とさまざまな利用に適応するオープンスペースを組み合わせた空間をさまざまなバリエーションとして示すことで、学校建築の核が説得的に示されていることが評価されたところである。そしてこの新設校舎は平屋建てとし分節屋根にすることで周辺の景観との調和を図っているなどの工夫が見られている。しかし、北校舎や西校舎の地域社会との関わりをもつ空間



**株式会社
邑建築事務所**

この提案の大半は地域との関連性と環境へ配慮や設備計画などに当てられており、子供たちの教室回りのスペースは確保してあるが、この内容はこれから考えていこうという姿勢が読み取れる。提案に関わる実例を多く引用し、度重なるワークショップなどで具体化が図られてきたことの経験

この役割分担などを含めて、メディアセンター・ふれあいギャラリーのイメージがあいまいなこと、既存校舎とのループ状の動線によって生じる教室ブロック間の動線とブロックとしてのまとまりとの



▲公開ヒアリングのようす

対立についての疑問などが示された。全体的にはどういった学校ができていくか楽しみな面もあるが、最終的なイメージがいま一つあいまいであることで、最優秀案には至らなかった。

とが示された。しかし、子供たちの学びの場をどうつくるかという提案が十分に示されておらず、先行事例におけるワークショップの成果が学校づくりのなかでどういう成果に結びついていくのかが伝わってこないこと、などが指摘された。環境への配慮など個別的な課題に対する説得力は十分あるものの学校づくりの全体的なイメージが十分に示されていない難点があった。

平成14年4月18日

**飯館村立飯樋小学校校舎改築工事
プロポーザル競技審査委員会**

- 会長 鈴木 浩 (福島大学地域創造支援センター教授)
- 副会長 神長敬治 (飯館村教育長)
- 委員 境野健兒 (福島大学行政社会学部教授)
- 委員 長澤 悟 (東洋大学工学部建築学科教授)
- 委員 元倉眞琴 (建築家・東北芸術工科大学環境デザイン学科教授)